

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成24年4月号

祈りの子育て

神奈川県在住の知人の話です。優秀な長男が、名門私立高校に合格しました。家族もとても喜び、一家は喜びに包まれました。しばらくして、長男は「バイクがほしい」と言い出しました。その高校はバイク通学が認められていたわけではないのですが、友達とバイクで遊びたい、と思ったのでしょうか。父母は当然反対します。「何を考えているんだ。勉強の妨げになる。」というわけです。頭ごなしに反対しました。優しい長男は、仕方なくバイクをあきらめました。その後、どうなったのかはわかりませんが、大学を卒業し、就職し、しばらくした頃、お母さんから電話がかかってきました。「長男が悪性リンパ腫にかかった」というのです。何か首にできたものが、なかなか直らず、虫歯の仕業か？と思って歯科医に入ったところ、すぐに大病院での検査をすすめられ、そして病気がわかったのです。若干25歳の若さで……

母親は電話の向こうで、泣くしかありません。「ねえ、今ごろわかったわ。子育てって、いろいろ欲張るけど、最終的には、元気で生きていてさえくれればそれでいいんだって。あの時（バイクを頭ごなしに反対したこと）、もっとしっかり向き合って話を聞いてあげればよかった、って後悔してるわ。」と、振り絞るような声で、言うのです。もう20年も前のことです。幸い長男は神奈川大学に入院し、最新治療を受けて、無菌室で何ヶ月も過ごし、血液の総入れ替えとか、いろいろな治療を受けたということで、生還しました。そして会社のはからいで、週のうち何日かは働かせていただいているということです。

あの時の、お母さんの言葉が忘れられません。「子どもって、最終的には、元気で生きていてくれればそれでいい。」

子どもが大きくなるにつれ、親は様々な夢を抱き、「ああしろ、こうしろ」「あれはいけない これはいけない」と、期待をかけます。全く期待をかけられない子はみじめなものですが、親は、期待をかけつつも心のどこかで「元気で生きててくれればそれでいい」と、腹をくくっておかなければならないのではないかと思います。そして、一旦、子どもが自分の意志で動き始めたら、あとは親にできる仕事は祈りしかないのではないのでしょうか？もともと、子どもは授かり物であり、天からの預かり物です。親の私物ではありません。

「どうぞ、この子が普通の人間に育ちますよう、元気で、いろんな人と支えあって、真面目に与えられた人生を生きていけるよう、守って下さい。導いて下さい。そのために親の踏むべき道を指し示して下さい。」こんな祈りの中で子育てをしていきたいものです。それ以上を望むのは、親のエゴかもしれません。

何もバイクを買えばよかった、と言っているのではなく、そうやってきた時の長男の心がわかって、きちんと向き合って話し合えればよかったな、と思うのです。そうすれば、苦い思い出にはならなかったのかもしれない。